

西田小学校 同窓会 会報



発行者 西田小学校同窓会

西田小ホームカミングデー開催

実行委員長 田辺 恵一（17期生）

多くの卒業生が西田の丘に集まりました。遠路はるばる、北は北海道・秋田・宮城、西は兵庫・三重・富山から同窓生が集まってくださいました。主催者としてこんなに嬉しいことはありません。ご参加の皆様、またお仕事やご家庭の事情で出席がかなわなかった皆様にご支援いただいていることに心からお礼を申し上げます。そして会場をご提供いただき、ご出席くださいました小堂校長先生、新井副校長先生、ならびに西田会の山口あけみ先生、黒崎美智子先生に厚くお礼を申し上げます。

卒業以来、初めて懐かしい母校を訪ねられた方、何十年ぶりの方、お孫さんの活躍をご覧になるため時々、など、思いは色々だけど多くの先輩たち、後輩たちが久しぶりに顔を合わせ思い出話に笑顔が溢れていました。

母校を卒業して、子供たちの成長をサポートするため学校行事や地域支援のお手伝いを通じて、同窓会の重要性をいつも大切に思ってきました。

そんなやりがいのある役割を担う大役を皆様のご協力をいただき、無事果たすことが出来たことに心から感謝申し上げます。

諸先輩の熱意と努力で設立した同窓会の歴史もまだ発展途上の状況、その想いに応えるためこれからの歴史を刻んでいく一員として、多くの卒業生の皆様と共に今後の同窓会を支えていきたいと思っています。

楽しいホームカミングデーにしようと実行委員会は1年以上かけてきました。しかし学校と云う特別な環境の中でありますので満足な接待もできませんでした。いろいろな企画を考え実施しました。短い時間ではありましたが有意義に過ごしていただけたのではないかと思います。会の運営など至らぬところも多々あったと存じますが、4年後の創立80周年記念式典に反映させていただきますので、ご了承賜りますようお願いいたします。



ホームカミングデーの模様

実行委員長の開会宣言に続いて会長が挨拶、来賓代表として校長のつなし小堂十先生のご挨拶を頂戴しました。

西田小学校はユネスコスクールの認定を受け、さらにコミュニティスクールとして地域に根付いた教育と国際感覚を持った教育と持続可能な世界を作り上げる能力を育てるなどの取り組みをしています。そのお手伝いに学校を支える学校支援本部、同窓会、おやじの会、地域の方々の協力を得ています。これからも学校への支援をよろしくお願いいたしますとして結ばれました。

つづいて、西田小学校の創立75年の沿革と同窓会の25年間を振り返るフォトムービーを見ていただきました。



この会を盛り上げる記念コンサートが開かれ、はじめに昭和39年卒（21期）田中三奈子さんのソプラノ独唱はモーツァルト、シューベルト、ブラームス、プッチーニ、の有名な曲と日本を代表する山田耕筰・小林秀雄の名曲をたっぷりと聴かせていただきました。



終わりに参加者全員で「ふるさと」を歌いました。つづいて昭和38年卒（20期）仲良し4人組で何と4人とも西田小・松溪中というメンバー、大久保清さん、田原恒雄さん、石川研二さん、武石雅行さんのレパリーズフォーによる懐かしのフォークソング演奏を堪能しました。そこに、19期の柴山英次さんも飛び入りで加わり更に盛り上がりました。



新井副校長先生に乾杯のご発声をお願いし、懇親パーティに移りました。世代の違う卒業生も昔は近隣同士・兄弟や姉妹と一緒にあったというような懐かしい話にあちらこちらで花が咲きました。



26年前に亡き野口洋介氏を初代会長として同窓会が設立されました。その後会の発展にご尽力をいただいた前々会長の宇田川允敏氏（3期）と前会長の土屋忠夫氏（3期）に、その功績を讃えて感謝状を贈りました。



89歳ながらお元気な山口あけみ先生、車いすでしたが黒崎先生もお見えいただきありがとうございました。山口先生にスピーチをお願いしましたところ声に張りがあり西田小勤務時代のお話を懐かしそうに楽しげにお話され大変喜んでおられました。



20期の卒業生たちが2年生の時に担任であったというお話でしたので20期のメンバーは多く集まっておりました。

楽しいアトラクションとして抽選会も行い、数少ない景品でしたが当たった方には喜んでいただけたと存じます。時間はあっという間に過ぎ最後は校歌斉唱です。

西田小には3つの校歌が存在します。「西田健児の歌」「西田の丘」「西田小学校校歌」です。今回は申し訳ありませんでしたが現在の校歌にさせていただきました。



名残はつきません、4年後の80周年でまた会いましょう。最後にスタッフ一同ご来場の皆様とエールの交換をさせていただきました。



★ 田中三奈子さんのピアノ演奏は平川寿乃さんをお願いしました。

★ パーティのBGMと校歌の伴奏は田辺望さん（61期）をお願いしました。

★ 司会は西田小2年、4年、6年の保護者である篠澤希美子さんをお願いしました。

ご協力いただきました3人の方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ホームカミングデーにご参加いただいた方々

西田小学校：小堂十校長先生、新井雅晶副校長先生

恩師：山口あけみ先生、黒崎美智子先生

同窓生：敬称略（旧姓）

- [1期] 大坪三郎、大西秀男
- [2期] 澤田眞養
- [3期] 宇田川允敏、土屋忠夫、川村秀、北岡靖博
- [5期] 中津（丸茂）陽子、青木（三浦）浩子、田島（宇田川）孝子、西野喜久子
- [6期] 田中健一、井上正之
- [7期] 中村昭、宇田川一浩
- [8期] 佐川（黒田）明子、渋谷好重
- [9期] 宇治川（山形）多嘉子、西本定保、吉村信敏、柏木謙治
- [11期] 神山直樹、金有一
- [12期] 二見隆、河野（浅沼）浩子、大久保和彦、檜枝光太郎、杉原（山口）素子
- [13期] 青池（五味）栄子、辻（古沢）喜代子、田名網（柏木）志津子、小林一夫、中村克、野口杉男、野口並人、東條巖、守屋洋、中田龍治、中澤一郎
- [14期] 半田恭子、林野基子、信川健介、穂刈孝史、片山登、小林真人
- [15期] 相良雅雄、片山トヨ子
- [16期] 世良隆憲
- [17期] 山本（大場）醇子、飯田（綿貫）典子、武井成之、水原宏、武田修一、遠藤富幸、田辺恵一
- [18期] 葛西（佐々木）文子、島田真理子、片野（佐々木）房子、近藤（山田）直美
今野（二ノ美屋）貴子、山口建史、城俊道、河野利通、奥村節雄、笠井象、伊豆田高久
黒田裕、坂本正夫、鐘俊幸
- [19期] 土屋（宮島）由美子、上平（西田）真理子、落合（伊藤）昭子、松井栄子、山崎久留美
西野（間瀬）ゆり子、瑠璃川（中野）正子、川波（岩見）陽子、内田知男、佐藤民生
柴山英次、森田信輝
- [20期] 照井（三輪）康子、橋本（前川）佳世、金川順一、宇田川基、秋永雄一、芦原正夫、加藤和夫、大久保清、石川研二、武石雅行、田原恒雄、保坂秀司、萩原伸一
- [21期] 宇田（田辺）恵美子、松岡ユリ、熊倉（吉田）智恵子、田中（春日）三奈子、卯野和枝
世良隆明、鵜名山隆、林貞敬、石丸剛
- [24期] 田所（植村）久美子、清水信昭、中野真木郎、林余里子
- [25期] 鵜名山（林）ゆり、奥田（岡垣内）洋子、小島（菊江）典子
- [27期] 高橋和彦
- [28期] 秋山（岡垣内）美穂子
- [29期] 新井大介・恭子
- [32期] 長谷川雅也
- [34期] 宮崎利恵
- [39期] 勝井聖子、新井康久
- [61期] 田辺望

司会：篠澤希美子様（在学生保護者）

ご参加いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

昨年12月にユネスコスクールとしての研究発表会を行いました。

杉並区公立学校では唯一のユネスコスクールである本校が、3年挑戦してきた様々な取組を区内のみならず、都内の学校にも広く報告する機会となりました。本校の挑戦は東京都の教育推進校の実践であるとともに文部科学省から委託された事業としての取組です。西田の丘の教育が、ここ3年で実日本の中でも注目されている学校教育であることを、同窓生の皆様はご存じでしょうか。——実はすごいのです。

何が評価に値するのかを一言でまとめると、私は「発想を変える」ではないかと思います。一つは「教え込みの授業からの変革」、脱却と言っても良いかもしれません。教員が知識を伝えるだけの時代ではなくなりました。地域の専門家から体験談を聴き、調べ、話し合い、自分は何ができるかを決めて行動する、そういった自分を見つめながら学んでいく教育を教員が理解し、追究し続けています。取り上げる課題も環境、福祉、町づくり、紛争や飢餓、平和と国際協力など、一見小学校の内容かと思われる課題を取り上げ、子供たちに取り組みさせてきました。

もう一つは、「学校」と「地域」は別物ではなく「地域の中の学校」という全体観をもって学校としての役割を見つめ直すことです。学校運営協議会に学識

経験者を含め同窓会長などの地域の方が加わり、西田小学校の教育のメンバーとして智恵を出し合い、地域とのパイプ役を担っていただいていることもその一つです。また「西田の丘フェス」の企画・運営は学校、同窓会、学校支援本部が協働して町づくり・地域の活性化を狙った活動です。学校は子供の指導をしていれば良いという時代ではないのです。地域の一員として行動することに価値があると考えます。同窓会の存在は西田小学校には大きな存在です。

最後に、これらの挑戦に教員が気持ち良く応えたことをつけ加えたいと思います。ある意味で、自分の枠組みを取り外すためには勇気と努力が必要で、チームの力が大事と考えます。自校の調査では「教員間のコミュニケーションがよかった」という結果が出ています。

西田小学校が一つになり、地域の皆様とともに一丸となって、子供たちのために、そして西田の地域のために活動ができるよう今後も努力して参ります。



学校行事から（30年同窓会おたより以降）

西田小学校同窓会 会長 中澤 一郎

運営協議会

一昨年西田小学校はコミュニティスクールとなり、運営協議会が発足しました。

まず、運営協議会の委員は学校の現状を知る必要があります。西田小学校を素晴らしい学校にすることを目指し先生方やPTAと懇談を持つことでした。すでに、先生との研究授業を通しての交流、PTA懇談会でのワークショップなどを実施しました。

学習発表会

11月9・10日に開催され、今年は舞台発表です。1年生から6年生まで全員参加の心のこもった演技です。特に6年生は卒業を控えた最後の晴れ舞台です。一人ひとりが作品を仕上げるため大道具、小道具、照明、音響、演出、役者と仕事を分担することでみんなの絆が強くなったようで感動しました。

西田の丘フェス

11月23日開催で恒例となったイベントです。地域の皆様との交流を目指しています。西田小合唱教室・先生のバンド・松溪中吹奏楽部、校長先生所属のコラスグループ、副校長先生所属のバンド、など多彩な出演者で盛り上がりしました。

西田昔遊び

12月10日開催。1年生に昔遊びを伝承する学校支援本部の企画です。同窓会や地域団体、PTAの皆で子供達に遊び方を教えます。出来ることに挑戦することを教えます。

同級生よ集まろう！！

17期 古希の集い

17期生（昭和35年卒）田辺 恵一

戦後のベビーブームに生まれ、後に団塊の世代と呼ばれた私たちは、1960年（昭和35年）に西田の丘を巣立ち、古希を迎えました。これまで支えてくれた家族や多くの方々に古希を迎えるこの歓びを届け、心から感謝したいと思います。小学校卒業以来、60年ぶりの懐かしい友もいた古希の集いは各クラス幹事の協力を得て、平成30年2月25日（日）15時より、新宿にあるハイアットリージェ

ンシー東京27F スプレnderの間で開催されました。芸能界で活躍の‘せんだみつお’さん（中野光雄さん）を含めた28名の参加で束の間の楽しい時間をすごしました。同期会は今後77歳・喜寿の集いを計画しています。お元気な姿でまた、お会いできるのを楽しみにお待ちしております。



4列目：川崎輝彦（4）・浅沼誠三（6）・小林正人（6）・右田晴三（1）・吉田丈治（1）
3列目：米山繁（3）・篠原優（3）・北御門励人（4）・服部純一（2）
2列目：若林真幸（6）・夏目栄（6）・石川進（6）・中野光雄（2）・神山苑子（3）・中田安子（3）・樋口京子（3）
橋本立子（5）・米田薫（2）・泉原美奈子（5）
1列目：矢口隆一（4）・岩田善行（6）・武田修一（2）・田辺恵一（3）・横川和則（3）・大場醇子（4）・綿貫典子（5）
小川隆（1）・清水貞一（5）

13期 ミニ同期会

13期生（昭和31年卒）幹事 浅野 宏（代：中澤）



平成30年12月8日（土）新宿「随園」で毎年恒例の同期会が開かれました。毎年開催している継続性が大切で、はじめは6年3組だけのクラス会だったのが、幹事浅野君のお陰で1組、2組、3組からも参加し今やミニ同期会として楽しく開催しています。

左より：中澤、半澤（娘さん）、小林、中田、朝永、志摩、井手、守屋、小林、浅野、半澤、東條

19期 同期会

「西田小ホームカミングデー・19期卒有志2次会」平成30年10月21日(日)、西田小にて開催された「ホームカミングデー総会」終了後、19期卒有志は荻窪駅前の居酒屋「かまどか」にて2次会を開催、12名が参加しました。クラスは違えど同じ時期を過ごした同輩、50年以上も前の懐かしい思い出話が色々出ました。参加者のほとんどがそのまま今年創立70周年を迎えた「松渓中」に進学したため、酒が進むにつれ、記憶にある事ない事、さ



左より内田、松井、栗田、佐藤民夫、藤林

19期生(昭和37年卒) 柴山 英次

らには小学の時の話なのか、中学の時の話なのか、混然としてきたのは酒の酔いのせいばかりではなく、「古希」を迎えようとする脳細胞の劣化・衰退に起因するのかも。これでまた新たに年号が変わるとなると、昭和、平成... いつの事やらの記憶も判然としなくなってしまう懸念を感じつつ、お開きとなりました。

参加者

1組 本間、落合、山崎、上平、塩谷、柴山

2組 栗田、藤林

4組 佐藤民夫、内田

5組 森田、松井



左より森田、上平、塩谷、本間、山崎

27期 同期会

平成30年3月17日(土) 飯田橋のホテルメトロポリタン・エドモンドにて同期会が開催されました。

先生方2名を含め総勢60名の有志たちが集い、エネルギーに溢れた同期会となりました。前回の同期会は15年前の秋。その時は顔をあわせるのが約30年ぶりだったので、顔と名前が一致せず自己紹介して初めて「あ〜」とか「お〜」という場面がほとんど。でも今回は自己紹介もそこそこに近況報告など会話が尽きません。

27期生(昭和45年卒) 高橋 和彦

立食パーティだったので約3時間ひたすら立ち話。元気はつらつな皆の笑顔は絶えることなく、盛大なパーティとなりました。個人的に嬉しかったのは、先生が私の名前を憶えていたことです。もっとも成績が優秀だったわけではなく、ちょっとした問題児だったからでしょうね。次回の開催はいつだろう...と期待しつつパーティはお開きとなりました。

幹事さんたち、お疲れ様でした。



同級生よ集まろう！！

21期6年4組クラス会

21期生（昭和39年卒）世良 隆明

平成30年10月21日、昨年延期された西田小ホームカミングデーが晴天の中開催されました。

とても盛大な会で、記念コンサートではクラスメートであるソプラノ歌手の田中さんの歌声も聞くことができました。当日は2次会として荻窪駅近くのレストランでクラス会も開催しました。今回は余公先生は欠席されましたが、16名が集まりみんな

和気あいあいと楽しいひと時を過ごしました。今年は1998年に第1回目のクラス会を開催してから丁度20年目の節目にあたり、思い出に残る会となりました。また、クラス会以外にも「ろくよん旅倶楽部」を立ち上げ、第1回目は函館の温泉を堪能してきました。今後もクラス会や旅倶楽部を継続して、クラス仲間の親睦を深めていく予定です。



後列：竹口、世良、武藤、石丸、林、中野

中列：上野（小林）、田中（春日）、宇田（田辺）

前列：鵜名山、松岡、並木（津田）、大野、中谷（満江）

今年は8期（昭和26卒）傘寿

11期（昭和29卒）喜寿

18期（昭和36卒）古希

28期（昭和46卒）還暦

お祝いの会を！！

サンチャゴ・デ・コンポステーラ 巡礼 の道800kmを歩く

12期生（昭和30年卒）吉田 浩二

後期高齢者の仲間入りした区切りにと、2018年6月中旬に日本を発ち、ピレネー山脈フランス側の麓町サン・ジャン・ピエール・ド・ポールを6月20日に出発し、36日間かけて799km歩きました。

道はスペイン語で“Camino カミノ”です。一番人気のあるこのコースは、フランスの道と言われています。都市名サンチャゴは世界のあちこちにありますが、十二使徒の一人、聖ヤコブのお墓が見つかった街ということで、スペインはサンチャゴ・デ・コンポステーラと呼ばれています。

一度支配されたイスラム勢力を押し返すのに、領主や騎士が加護を求めるためとか、神職が教会の位階を登るためとか、罪人が許しを求める手段とか、一族・家族の幸せを祈るためとか動機は色々でしたが、中世頃から聖地へ巡礼する人が増えました。

昔は途中金品を狙われたり、寒さに凍えたり、川に流されたり、まさに命がけの旅でした。当時は、勿論信仰が動機の人もありますが少数になり、かわって大衆娯楽の定番になっています。最後の100kmは、修学旅行の団体も目につきます。世界各地から老若男女が集まってきては、それぞれのペースで歩きを楽しむ、大がかりなスタンプ・ラリー化した旅と言えます。

適当な距離を置いて、アルベルゲという公営、教会後援団体、私営の巡礼宿があり、安い値段（5～10€）で泊まります。自炊設備のあるところも多いし、近くには割安の巡礼メニュー（10€前後で、

前菜・主菜・デザート+ワイン）を出すバール（飲食店）もあり、都会で暮らすよりお金が掛りません。街中も郊外も野山の道も、程良く現れる黄色ペンキの矢印や貝印マークが道標です。同じ道を歩いている親近感から、すぐ友達や交流の輪が出来ます。こんな諸々が、節約型長期休暇の過ごし方として人気のある理由でしょう。

カミノを歩く人の国別統計では、1位スペイン、2位フランス、3位ドイツ、4位イタリア、5位韓国で、日本は20数番目のようです。私は高校の山岳部に、「ピレネーの山の男」という歌を唄う後輩がいて、ピレネーという響きにロマンを覚え、どうせならピレネーを超えて800km歩いてみたいという、全くの好奇心が動機でした。顎鬚を仙人の様に長く伸ばし、仙人らしい杖を持ち、75歳の日本人という道具建てを揃えたせいか、名前をすぐ憶えられて、あちこちから“Hi Koji”と声をかけてくれるので、一人旅という気が全くしませんでした。

サンチャゴ・デ・コンポステーラのカテドラル前の広場に着いて、再会した顔見知りの人々とハグし、ピルグリム（巡礼）事務所で歩いたという証明書を発行してもらい、カテドラルでミサ終わり際の大香炉スイング・パフォーマンスにも立ち会いました。祝杯はイベリコ豚の生ハムにワインを傾けました。つましい年寄の暇つぶしにしては盛り沢山で、36日間歩き続けは疲れましたが、何とか持ち堪えて自己満足感に浸りました。



サンチャゴ巡礼の仲間（顎ヒゲ：私）



サンチャゴ広場

ちうね

杉原千畝さんの思い出

まず、杉原千畝さんについてはご承知の方もおられると思いますが、第二次世界大戦中に「ナチス」ドイツの迫害から自分の身分や命を投げ打って（日本の外務省の命令に応じることなく自らの信念をつらぬき）、ビザを発給し多くのユダヤ人を救った、東洋のシンドラーとして有名です。



杉原さんが
ビザを
発給した
人だ。

査証：イギリス経由日本（敦賀）昭和15年7月 カウナス領事代理 杉原千畝

私は貿易商社のモスクワ駐在員時代に杉原千畝氏の許で働く幸運に恵まれました。1967年（昭和42年）8月から1971年6月30日までの3年10か月でした。彼は、第二次大戦中にユダヤ難民を救ったことを一切語らず、私たち駐在員が、その事実を知ったのは、1968年8月2日付けの朝日新聞（夕刊）によってでした。自分の善行を語らないのは、朝敵の汚名を着せられながら、孝明天皇の感謝状を生前公表しなかった、会津藩主・京都守護職だった松平容保（まつだいら かたもり）と同じ古武士を感じました。最初の一年間、杉原さんの経歴は知らぬまま、彼のロシア語はネイティブで、声はバリトン、劇場俳優のように遠くまでよく通り、ロシア人の秘書がタイ プした商業文に朱筆を入れ、打ち直しさせるなど、「すごい人だ」と思いながら、ロシア語の表現や、ジョークなど盗ませてもらいました。ご一緒させていただいた全期間を通して、部下や秘書を叱責したり、声を荒げたりする場面に一度も遭っておらず、劇映画「杉原千畝」で主役の俳優が、激昂するシーンが一度ならずありましたが、実際の杉原さんは、NHKのドラマ「西郷どん」の

主役に相通ずる、大きな人物で、ソ連貿易公団のロシア人職員は、「ゲネラル（将軍）」と呼ぶほど、オーラのある方でした。タバコは吸わず、住まわれた都心のホテル＜Minsk＞から事務所の在る、ホテル＜Ukraina＞まで約4kmを四季を通して、往復徒歩で通勤されていたが、1969年5月末、ソ連外国貿易省の認可が下り、日本車セドリックをヘルシンキから輸入後は、生来の＜車好き＞に戻られました。冬はノルディック・スキーを楽しんでいたことを思い出します。ピアノは＜エリーゼの…＞でしたか、一度だけ聴いたことがあります。

ロシア語・ドイツ語・英語は自由に話されました。東京外語大山岳部出身の田村俊介君が、プラハで開催された国際アルピニスト連盟の会議に参加して持ち帰った資料が全てドイツ語で、困っていましたが、杉原さんがスラスラ訳してくれて驚き感謝したことがあります。プラハといえば、ケーニヒスベルグ退去後の任地で、リップントロップ外相が乗り込んで、枢軸国の外交官を呼びつけ、居丈高に「退去してもらいたい」と言った時、杉原さんだけがドイツ語で「ドイツに退去してくれといわれる覚えはない。その理由を説明してください」と冷静に発言し、リップントロップ外相は絶句して一言もなかったと、幸子夫人は回想録に書いておられますが、正にさもありません。

近年イスラエルからのツーリスト7～8千人が、「杉原ルート」と呼ばれる、敦賀―八百津―神戸などを訪問されるようになっていますが戦後、米国東海岸に安住の地を得た、かのユダヤ難民が「日本の初代 駐米大使に杉原さんを！」というキャンペーンを起こし、日本の外務省に「カウナスの領事館におられたスギハラ・センボ領事はどこにいるか？」照会しましたが「そういう人物は外務省にいない」と答えたことは劇映画でも描かれました。歴史に「もし」はあり得ませんがもし、杉原さんが外務省に残り、独立回復後、駐米大使になっていたら戦後の日米関係、ひいては日ソ関係も異なる展開をしたでしょう。私は、仕事で大変ご指導をいただいただけ

でなく、1970年8月5日モスクワで、今は亡き妻、エレーナと結婚する際、杉原さんに、日本での仲人に当たる「立ち合い証人」になっていただき、暖かく見守っていただきました。私は、今年、86歳になりますが杉原さんのUNESCO記憶遺産の登録実現や、ロシアやリトアニアで杉原さんの偉業を末永く記録・継承する事業に微力を尽くす所存です。



山極武利校長先生、山岸義一先生ほかの先生方により、戦争直後の混乱期に、確固としたモラルと正義感を身につけさせていただいたおかげで、今日の自分を造ることができました。西田小学校を卒業したことは私の生涯の誇りです。



思い出すまに

28年版の同窓会会報に2期の澤田眞養さんが桃井第二小学校時代のサハイさんのお話をされていて、もう本当にびっくり！私が憶えているサハイさんは入学した日の朝礼の時、壇上に立って桃井第二小2代目、花田校長から紹介されているピンクのワンピースの美少女です。なんて素敵なお洋服！なんときれいな人なの・・・当時2年生の私はただうっとりと見詰めていました。その後西田小学校へ移り、家も遠く見掛けることもなくなりました。でも昔を懐かしむ年齢になってあのピンクのお洋服姿を、それに見とれている私を想いだし、戦後あの一家がどうなったかと考えたりしました。そこへこの澤田さ

はなこ
3 期生（昭和 21 年卒）矢内（旧姓松坂）花籠

んのお話です。本当に驚きました。澤田さんとは学年も家も離れ、疎開先の別所の6ヶ月間でお名前を知っただけ、どちらかと言えば色白のおとなしそうな6年男子というだけでしたが、おぼろげながらご風貌がよみがえりました。ありがとうございました。蛇足ながら平成22年に大学のクラス幹事で「信州の鎌倉」廻りをしたとき、「案内書」に「和泉屋」が載っておらず、（現実にはあるのに）、宿の人に尋ねたら和泉屋さんは他の経営者に代わっているとのこと。疎開の時の宿舎の思い出として、桃井第二は「緑屋」、立教が入っていた「つるや」など今でもあるそうです。

参考：会報28年版から澤田眞養さんの記事より抜粋・・・さて、白水社刊 笠井亮平著「インド独立の志士朝子」を読んで思い出探しを一つ。サハーイ・アシャー一家が上荻窪に居住していました。父サハイはインド独立の志士チャンドラ・ボース氏の片腕。アシャー（朝子）は聖心女子高等女学校を経て、昭和 高等女学校（現・昭和女子大系）へ、妹のペビ（スモナ）と弟のアショークは自宅から歩いてすぐの桃井第二国民学校に入学していた事を知りました。しかも、妹弟は集団疎開で長野県別所村へ行っていたらしい。私たちの「別所」です。早速、桃二小へ連絡して返信を待っているところです。・・・

文化勲章受章・杉並区民栄誉賞
芝祐靖さんと（兄）芝祐久さん

13 期生（昭和 31 年卒）小林 一夫

松溪中同窓会では、母校が 2018 年に創立 70 周年を迎えるにあたり同窓生が母校の歴史や共有する思い出などを語り合う集いを計画していました。そんな中 2017 年 11 月、第 1 期卒業生、芝祐靖さん文化勲章受章の慶事のニュースが到来、私たちは千載一遇の好機と考えこの二つの歴史的な慶事を結ぶ祝賀行事を計画、掲題演奏会の催行となりました。芝祐靖さんの詳しい功績、来歴および今回出演いただいた雅楽演奏団体“社団法人伶楽舎”については紙面の都合上、一般メディアおよび松溪中学ウェブサイトをご覧いただきたいと思います。ここでは演奏会当日の様子と、芝家と西田小のご縁についてお話しします。

第一部伶楽舎雅楽演奏会

来場者は卒業生と母校関係者が 131 名それに近隣よりの来場者を加え合計 230 名ほどでした。ほとんど高齢者ですが、雅楽は初詣神社での録音演奏以外聞いたことのないものばかりです。全体で 90 分ほどのプログラムは芝さん自ら監修、母校 70 周年祝いを考慮し周到に用意されました。芝さんを含め演奏楽人（14 名）に舞人（1 名）を加えたフル編成です。第一部では、まず楽器紹介として各種管弦打楽器の説明と基本音を聴き少し音になじんだ後、だれもが聞き覚えのある越天楽（黒田節の原曲）をはじめ代表的な雅楽を聴きました。引続きあらかじめ配られた奇妙な楽譜を見ながら全員で越天楽を歌い次第に雅楽の世界に引き込まれていきました。

第一部最後は中国南北朝時代の勇壮絢爛な舞楽、陵王に圧倒されて第一部が終了しました。

第二部では、冒頭 芝さんがひとり登壇、伶楽舎理事宮丸さまの軽妙な司会による対談を通し芝さんの松溪中入学前後の時代、社会の様子が語られました。曰く、戦争中の信州への疎開、入学した松溪には校舎がなかった、など。（1 期生は 1948 年終

戦 3 年後の入学です）。そしてご自身作曲の龍笛独奏を 2 曲披露されました。今芝さんの独奏を直接聴けるのは希有のこと、広いアリーナに鋭く清く響きわたる龍笛の音色が強く印象に残りました。最後は雰囲気まるまで変わり、芝さん自身も龍笛奏者としてオーケストラに参加、芝さんが宮内庁を退官された志の一つ、“現代雅楽”の青少年を対象とした創作雅楽 2 曲が演奏され、プログラムは終了しました。終演と思いきや、心憎くも番外で松溪中校歌演奏が準備されていました。幸い歌詞はアリーナ舞台の壁に刻まれていました。遠く見にくい歌詞板を頼りに懸命に 3 番まで歌いあげ、和気あいあいの雰囲気演奏会は終了しました。

西田小学校校歌作曲者芝祐久さん

西田小校歌の作詞者が恩地孝四郎さんであることは知っていても、作曲者の芝祐久さんが今回の松溪祝賀行事をお願いした芝祐靖さんと兄弟であることを初めて知りました。

芝家は、江戸時代まで雅楽の拠点奈良にご在住でしたが、お祖父さまの時代、明治維新により東上した天皇家に従いご一家も移住、お父上の芝祐泰さんの時代は奥様と男子 3 人、川南にお住まいで、西田小・松溪中とのご縁が生まれたようです。芝祐靖さんは三男、祐久さんは長兄です。祐久さんは雅楽を経て洋楽全般の作曲家になられ、長く東邦音楽大学教授をされておりましたが昨年残念ながら逝去されました。母上はピアニスト、松溪中一ケタの卒業生の中にはレッスンを受けられた人もいます。

西田小校歌の制定は昭和 27 年（1952 年）のようです。

芝祐久さんは昭和 3 年（1928 年）のご誕生ですから 24 才の時作曲されたことになります。この年に宮内庁楽部を退職され洋楽の道へ歩まれました。そういえば西田小校歌はなんとなく雅楽の香りがするようです！



会員からのメッセージ

会員の皆様からのメッセージです。お元気でいろいろな分野で活躍の様子や古い同級生の思い出などいただいております。会報発行が年1回なので、時間のずれと字数の関係で文字割愛をお詫びします。(敬称略)

大西秀男

1期：小生が「西田」にお世話になったのは昭和17年7月(開校)から19年3月まで5年生と6年生の2年間最上級生を勉めました。当時は自然豊かで近くの雑木林(なら、くぬぎなど)にまだら蝶の「おおむらさき」が棲んでいました。秋には田んぼから採ってきた「いなご」の佃煮を皆と一緒に食べたのも懐かしい思い出です。現在は横須賀市西部、相模湾に面した方「葉山御用邸」の南方、長坂という所に、平成元年から住んでおります。荻窪の旧地より移り、妻(83歳)と二人で余生を過ごしています。二人とも寄る年波ですが、自立しております。現在の地は気候温暖、水は凍ることなく夏は意外と涼しく、冬は暖かく過しやすい場所です。

遠藤達二

1期：日々散歩と園芸を楽しんでおります。

神山英子(猪瀬)

1期：数少ない1期生と思いますが私達女子3人新田(旧岡川)、和田(旧鶴田)と連絡を取り合っております。

矢内花菟(松坂)

3期：脚が少し弱くなりましたが、何とか一人暮らしが出来ております。どうしても連絡の取れなかった土屋忠夫さんのお名前を役員名簿に発見「生きてた」というわけで安心しました。

中村通敏

5期：趣味の古代史の勉強で過しています。晴れゴルフ、雨読書の日々です。

西野喜久子

5期：ホームカミングデーに同期3名で参加させていただき、とても楽しい会を有難うございました。お世話役の方々お疲れ様でした。後輩のコンサートで元気をいただき次回も出席できるよう頑張ります。

都筑孝夫

6期：同窓会会報で6期生の名前を見ると懐かしいです。僕は仕事をリタイアしてから妻がフォークダンスをやっていた関係で、スクエアダンスを始めました。今年で18年目になりました。

花井景彦

7期：元気で仕事をしています。

永田澄子(野口)

7期：同窓会会報やお知らせをいただきお世話になっていきます。立派な学校になり益々のご発展を祈ります。

遠藤朝子(塚本)

8期：昨年夫をなくしましたが、テニス・マージャンなど楽しんで過しています。

宇治川多嘉子(山形)

9期：西田の丘フェスに参加してきました。大変素晴らしかったです。

河西宏和

10期：岸上先生の遺稿を会報に載せていただき感謝しております。

金 有一

11期：ご案内ありがとうございました。今回のホームカミングデーには出席したいと思ってます。西田町で生まれ以来西田小の近くに住んでいます。最近は小学校には選挙のときに投票に行くだけで訪れる機会が少なくなりました。朝永振一郎先生の随筆「西田町一丁目」を読むと私が小学生の頃の町の様子が克明に書かれ当時が思い出されます。

大久保和彦

12期：いつもご苦労様です。いたって元気です。(いまのところ！)

武田喜一

12期：今年も元気に町歩き、里山歩きを楽しみます。町歩きの「テーマ」は下町の散歩としたので、一回目は映画で馴染みの寅さんの古里です！！電車をいろいろ乗り継いで「柴又」へ「帝釈天」をお参りして近くを散策、昼食は川魚料理を満喫。矢切の渡し舟は平日で休みでした。残念！！寒かった、楽しかった、行って、良かった！！

小副川康子(橋本)

13期：会報の送付有難うございます。楽しみにしています。

飯田涼子(樋口)

13期：10月21日出席できることを祈りつつ元気に暮らしております。

田辺保博

13期：役員の皆様まとめやくご苦労様です。東京の隅で元気に生活しています。中田龍治さんに「ご無沙汰してます」と伝えてください。

遠藤富幸

16期：小学校以来、荻窪が安住の地となり、現在ゆうゆう荻窪東館にてボランティアをしております。大学時代の昔取った杵柄で月一度「日本の歌」音楽会を開催し、20数名の方たちと老後を楽しく歌っています。シャレールの脇の特養「紫苑」にても月2回歌っています。人生「四苦八苦」歌で「抜苦与苦」にて生きて行きたいと思っています。

次ページへ

会員からのメッセージ

世良隆憲

16期：大学卒業後、48年関西の姫路に住んでいます。現役時代は本社のある東京へしばしば上京していましたが、幸い今でも大阪にて勤め、月1回は上京しています。このタイミングを利用してホームカミングデーに是非参加したいと思っています。

小川 隆

17期：70才元気に働いています。

浅野晴夫

18期：69才になりましたが、まだまだ現役です。吉祥寺で「家族葬セミナー」300回をめざしています。役員の皆様有難うございます。

小山田格

18期：26才から牧師になりました。2017年5月より「国際福音センター」という新しい教会を始めました。2019年には新会堂を東小金井に建てる予定です。

小野 茂

19期：元気にやっています。

杉本 洋

21期：東京芸大大学院終了後から現在まで、日本画家を続けています。(会報25年版にて紹介)昨年度横浜美術大学教授をやめて筆一本の生活に戻りました。昨年10月には京王プラザホテルにて個展を開催しました。

大門千春

22期：昨年3月で65才になりました。70才まではバイトして世間と繋がっていたいです。

阿部優子(桂島)

23期：長く杉並を離れていましたが、2004年に35年ぶりに戻りました。偶然中澤会長とお会いし同窓会を知りました。西田小学校懐かしいです。

先生からのメッセージ

昭和33年～41年 山口あけみ 先生

今から53年、昔初めて転任という経験をした事、団地が出来て転入児童が7人いて自身が不馴れな中、用務の方、給食の方、事務の方、保健の先生、学年主任の桜井先生、西先生、小原先生方にとってもお世話になった事が今、次々に思い出されます。8年間、一生懸命教師としての姿勢を学びました。学校行事は跡部校長先生、西澤校長先生のもと全職員

が、そして全生徒が楽しく動いていたのは心に残る学校でした。今回のホームカミングデーのお誘い感謝しております。私は卒業生とご縁がありませんでしたが、21期から下の学年のご父兄にはいろいろとお世話になりました。今回は20期のレバリーズフォーを楽しみに、そして多くの西田の丘の素晴らしい友に会いにいきます。

昭和46年卒担任 大野 義久 先生

昭和42年～46年までの5年間西田小で仕事をさせていただきました。まだ若かった時です。平成30年6月荻窪駅近くで教え子たちが同窓会を開いてくれ、久しぶりに会ってきました。月日の経つのは早いもので、皆さん60に手が届く年齢になって

います。10月21日の会にお誘いいただきありがとうございます。久しぶりの西田小学校に足を運びたかったのですが、自身の高校の同窓会とぶつかってしまい、残念ながら欠席します。盛会を祈っています。皆様によろしくお伝えいただければ幸いです。

粕谷高子 先生 92歳

同窓会会報ありがとうございます。

お世話になった、故岡田先生、故岸上先生ご他界のこと心から冥福をお祈り申し上げます。(合掌)素晴らしい西田校素晴らしい同窓会お知らせありがとうございました。感謝で一杯です。私は足が弱く

なりましたが朝一時間ほど歩いています。富士を見ながら歩く楽しさ、生きることの大切さ、感謝の日々です。「老いることも仕事なり」といわれた先輩の言葉を今実感しております。

先生からのメッセージ

昭和37年卒業担任 黒澤 弘夫 先生

同窓会のご案内ありがとうございます。

案内文にありますように「なつかしいな、行きたいね」いろいろな想いが湧き上がってまいりました。私は現在昭和2年生まれの90歳です。定年後、何かよい趣味でもと考え、三鷹にありました書道教室に三年間通いました。

現在そのことを活かして地域の方と書の勉強に励んでおります。健康保持のため朝夕の散歩を心がけております。それにしても近頃は足腰の衰えを感じるようになりました。埼玉の自宅から西田小までを考えると無理かなと考え、折角のお招きですが失礼させていただきます。(この書簡は8月末にいただいております。)

今でも、西田小のことは忘れ得ぬ思い出として浮かんでまいります。その想いの一つ二つを書かせていただきます。都内初任30才でした。ご父母の第一印象は、今までの農村地区と異なり、大変品の良さを感じました。勿論、お子さん達もです。生徒を呼ぶ時、君とか、さん付けか迷ったものでした。学年、学級の委員会で感じたことは、思ったよりたいへん気さくな方もおり、会もなごやかでホッとしたことを覚えております。そしてこの田舎教師に好意的に接していただきました。次の委員会であったかどうか?「授業参観は毎日でも、いつでも結構です、ただし音楽の時間だけはご遠慮ください」と申し上げたことを覚えております。(師範学校でピアノ、オルガンをしっかり身に付けなかった)。話があとになりましたが、校長の跡部先生は、私が北多摩郡の

田舎教師だから、気をきかせて無難な三年生を受け持ったと感じました。学年主任の神山先生は、私より三才くらい年上で何でも出来る人柄の良い方で、新任の私に親切な気遣いをしてくださいました。二つ目は理科の研究授業です。校長が教員に研究授業をさせる意義は二つ考えられます。一つは当然ですが、指導力をつけること。二つは研究が主体となって運営されることによって、地域や教育委員会から良い評価を得られること、いずれにしろ、教員に指導力がつけば教育にプラスになることです。さて、私の理科研究授業です。西田小学校はまだ創立から日が浅く、私の研究授業が初めてだったと思います。子供がよく理解でき一人ひとりが生き生きと学習に参加する指導計画を立て実施しました。講師の評で「今日の授業は、子供たちの観察、実験の態度も良くグループ活動の話し合い、協力しあった場面も見られたいへん良い」との評価をいただきました。理科の教師への誘いもありましたが、お断りしたこともありました。その後、西田小5年目終了の頃、高井戸小への異動の話をいただき、校長先生の新卒時代の恩に報いなければと、即座に「わかりました、よろしくお願いします」とお応えしました。西田小は最初の都内勤務の学校です。やさしく、そして理解し応援してくださったPTA・校長先生をはじめとする諸先生や関係者の皆さんにお世話になり、後る髪を引かれる思いで西田小を去りました。西田小の益々の発展を祈っております。

平成30年度実行記録

8月発行の同窓会からのおたより以降を記載

◆ホームカミングデー実行委員会

1. 日時：平成30年7月11日（水）午後5時～7時
2. 出席：実行委員 10名
3. 内容：実施内容の検討
4. 場所：かふえ&ほーる with 遊

◆平成30年度「同窓会からのおたより」発送作業

1. 日時：平成30年8月5日（日）午前10時～午後1時
2. 出席：世話人・役員 15名
3. 内容：封筒詰め作業
4. 場所：西田小学校・家庭科室

◆ホームカミングデー実行委員会

1. 日時：平成30年8月25日（土）午後5時～7時
2. 出席：世話人・役員 13名
3. 内容：実施内容の検討
4. 場所：かふえ&ほーる with 遊

◆ホームカミングデー実行委員会

1. 日時：平成30年9月22日（土）午後5時～7時
2. 出席：世話人・役員 13名
3. 内容：実施内容の検討
4. 場所：かふえ&ほーる with 遊

◆ホームカミングデー事前準備

1. 日時：平成30年10月20日（土）午後2時～6時
2. 出席：実行委員 13名
3. 内容：会場設営
4. 場所：西田小学校体育館

◆ホームカミングデー開催

1. 日時：平成30年10月21日（日）午前10時～午後5時
2. 出席：同窓会ほか、約130名
3. 場所：西田小学校体育館

◆「西田の丘フェス 2018」事前準備

1. 日時：平成30年11月22日（木）午後3時～6時
2. 出席：協力委員 5名
3. 内容：会場設営
4. 場所：西田小学校体育館

◆「西田の丘フェス 2018」開催

1. 日時：平成30年11月23日（金）午前11時～午後5時
2. 出席：協力委員 10名
3. 内容：受付・会場・写真他
4. 場所：西田小学校体育館

◆「西田小伝承あそび」協力

1. 日時：平成30年12月10日（月）午前9時～午後0時
2. 出席：協力委員 3名
3. 内容：1年生対象にコマ、ベーゴマ、けん玉のお手伝い
4. 場所：西田小学校体育館 各教室

個人情報保護について

同窓会会則により個人情報保護について規定しております。お名前、住所などの登録情報は名簿管理責任者を決め管理しております。名簿及びその他の個人情報や記事情

報などは同窓会の活動（会報送付、同窓会開催、連絡）のみに使用し他への流用は致しません。ぜひ名簿登録（会報送付）にご協力ください。

伝言板

転居など住所変更のご連絡をお願いいたします。